

飯伊地区 産業経済動向

No.548 2024/11
(6.12.25 発行)

 飯田信用金庫
IIDA SHINKIN BANK
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：喬木村高架橋から天竜川橋梁に向けてリニア工事が進む（喬木村阿島・12月24日撮影）	P 1
製造業 景況DIは前月から悪化。どの分野でも景況感好転と悪化の声が拮抗	P 2
建設業 11月の公共工事は前年比減少。10月の住宅着工は前年比10%増加	P 4
商業・サービス業 景況DIは前月から悪化。小売業、飲食業で景況感悪化の声が複数	P 5
しんきんリニア・三遠南信対策室です リニア新幹線 この1年	P 6
2024年の飯伊地区各種統計から	P 8
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	P 10

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性インキ
[ソイユース100]を使用しました。

再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月から悪化。どの分野でも景況感好転と悪化の声が拮抗

当月の製造業の業況判断指数（DI）は0.0で、前月から17.1ポイント低下。翌月予測はマイナス2.6で、前月から14.0ポイント低下。先月は、機械製造の電気・精密・光学分野で景況感が好転したとの声が多く聞かれたが、当月はどの分野でも景況感好転と悪化の声が拮抗しており、方向感の見えにくい月となった。先行きについては、機械製造の産業機器分野で悪化を見込む声はやや多い以外は、好転見込みと悪化見込みの声が拮抗している。これから年末商戦を控える食品製造でも同様の状況となっている。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- 受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、販売は増加の声がやや多い。先行きについては、販売、受注ともに増加見込みと減少見込みの声が拮抗している。
- 景況感…… 当月の景況感は好転見込みと悪化見込みの声が拮抗。先行きについても同様。

[企業からのコメント]

- ・「工作機械は、国内投資が引き続き弱い。海外向けは国によってまだらだが、全体では横ばい」「秋に受注が上昇したとの情報もあったが、一時的だったとの声が多い」「この先の受注状況については、不透明感が継続している」
- ・「今後は人のいるところに仕事が集まると考えている。多少だぶついても人の確保を最優先とする。」
- ・「来年は米国大統領が交代し、新たな政策による影響が懸念される。」

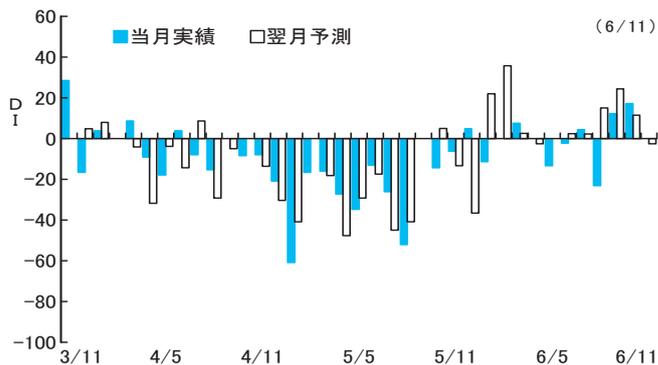
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- 受注、販売… 受注、販売ともに、前月比は業者により増減分かれる。先行きは、受注、販売ともに横ばいを見込む声が多い。
- 景況感…… 当月の景況感は横ばい。先行きについても大きな変化はない見通しという。

[企業からのコメント]

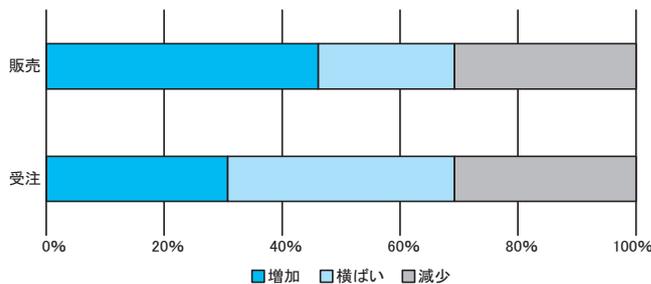
- ・「昨年の11月を底に、徐々に需要は回復している。ただ米国エンドユーザーの低迷が大きく、急回復には至っていない状況」「11月は試作関係で売上を伸ばすことができたが、先月、前年は下回った。一定の売上は確保できているが、改善に至る売上には届いていない。主要顧客からの受注は回復傾向ではあるが、乱高下はまだ続くと思われる」
- ・「NANDメモリへの投資需要が後ろ倒しとなっているため、来春から夏にかけて需要の踊り場となる見込み。また、来年以降は中国向けの出荷が2～3割減少する予測となっている」「当社のみならず、半導体業界全体も厳しいと聞かすが、AI関連は好調のため、二極化が色濃くなっている」
- ・「エンドユーザーの需要によって受注残高の増減に明暗が分かれている。インテル向けを積極的に獲得していたサプライヤーは、昨今の低迷により需要が一気に落ち込む状況となっており、次世代向けの需要のみとなっている。」
- ・「厳しいと嘆いていても始まらないので中小企業同士で足りないリソースを補完しながら売上を上げる方法の検討を開始する。」

飯伊地区景況DI（製造業）

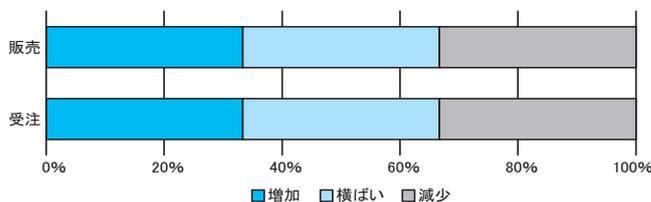


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
 景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
 「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合

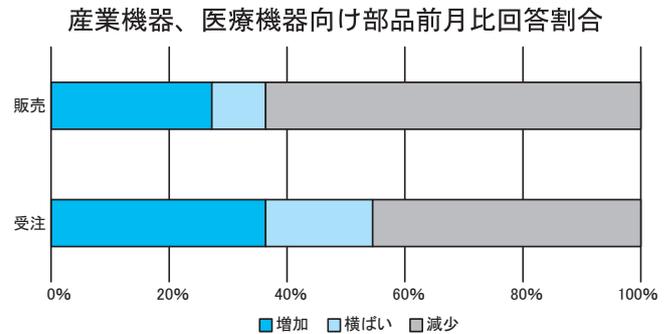


半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに減少との声が多い。先行きについては業者により増減分かれるが、減少見込みの声がやや多い。
- ☑景況感…… 当月は業者により見方が分かれるが、悪化～横ばいの声が多い。先行きは横ばい見込みの声が多いが、次いで悪化見込みの声が多い。

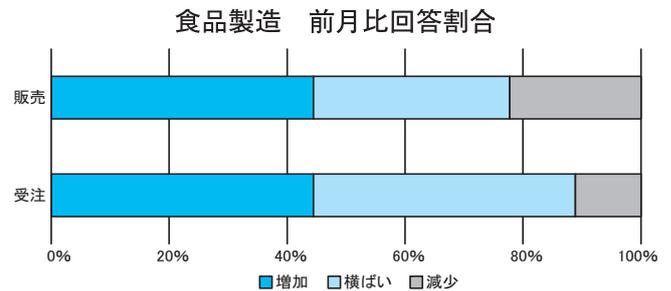


[企業からのコメント]

- ・「一旦売り上げは減少したが、受注量としては少なくない。アメリカ大統領選が終わって方向性が出てくることを期待したい」「景気は相変わらず停滞中で、経済全般で活気がないと感じる」「まだまだ、いい話は聞こえてこない」
- ・今まで低迷していた業界が伸びてきており、今後、半導体産業が本格的に伸びてきた場合にキャバ的に厳しくなりそうと心配していた。

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

- ☑売上…… 漬物の前月比はやや増加。菓子の前月比は業者により増減分かれる。先行きは一部に減少見込みの声もあるが、増加を見込む声の方が多い。
- ☑景況感… 当月は横ばいとの声が多い。先行きについては業者により見方が分かれる。



[企業からのコメント]

- ・「11月は動きが良く需要も多かった」「値上げもあって販売金額は増えているが、数量は伴っていないとの話が多い」「食料品各種の値上がりにより、特にスーパーマーケットへの納品点数が減少し続けている。今年の年末年始は連休が長いので、受注を期待したい」「年末に向けた需要増がある。一方で、消費者の値上げ防衛策は継続で、値上げ商品を中心に売上が減少している」「例年の年末のような忙しさはなかった。物価高による買い控えの影響もあるようだ」「行楽シーズンではあったが、観光需要に盛り上がりは感じなかった。むしろ市販品の動きが良い月だったが、その理由が分からない」
- ・「一般的に原料である野菜原料が不作のため苦戦している」「小売店ではキャベツ1玉1,000円弱まで上昇するなど、品目によってはかつてない価格が現実のものとなっている。今期の天候は、産地でもスケジュールに乱れが生じ、今後の動向が見えにくく、『経験則』が通用しなくなっている」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☑売上… 前月比は横ばい～増加。景況感は横ばい～好転、先行きは業者により見方が分かれる。

[企業からのコメント]

- ・この時期まで順調に受注増、販売増と期首目標以上に伸長しているが、授与品産業（際物）販売ピークは年末年始が多くを占めており、特に12月31日～正月1月3日の天候に大きく左右される。
- ・正月飾の注文が昨年より増加。単価が値上がりしているため販売は上向き。祝儀品はますます下降しているが、仏事関連は下げ止まり、順調に注文が来ている。

●上記以外の製造業

- ☑建築用金属製品… 販売は前月比、前年比ともに増加、先行きはやや減少を見込む。景況感は、先行きやや悪化を見込むという。
- ☑自動車向け部品… 販売は前月比で横ばい。景況感も横ばいという。
- ☑印刷……… 販売は前月比、前年比ともに減少。景況感は悪化しているという。

[企業からのコメント]

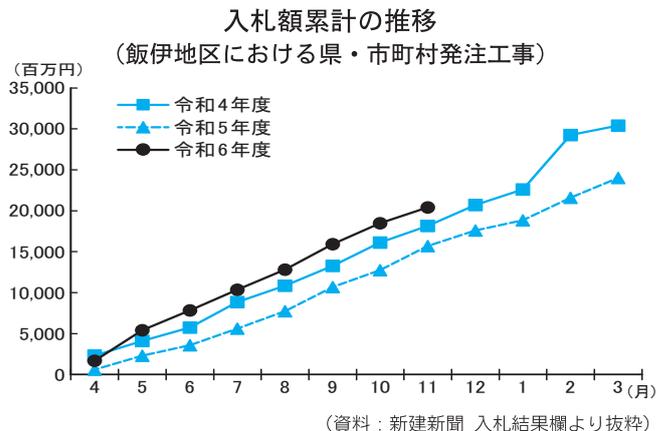
- ・建築資材の高騰、労務不足等の影響で、再開発以外の新規の建築案件がかなり減少している。来年度以降の物件が少なくなりそうのため、先を見据えた物件受注を行っていく。
- ・ハガキ代が85円へと値上がり、年賀状をやめる企業・個人が激増。企業によっては「環境への配慮」などの文面による年賀状じまいが目立つ。今年は年賀状を作成するケースでも、来年からやめるとの案内文も多く、来年はさらに減少することが予想される。予測していたこととはいえ、当業界には大きな痛手となる。
- ・資材の値上げは容赦なくやってくる。

建設業

官公需

概況 11月の公共工事入札金額は前年比で33.6%減少、一昨年比では4.2%減少

- ✓公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約19.5億円（12月15日調査時点）。前年に比べ33.6%減少、2年前との比較では4.2%の減少。
- ✓景況感…………… 当月は横ばいとの声がほとんど。先行きについても横ばい見込みとの声が多いが、一部にやや悪化を見込むとの声もある。
- ✓原材料価格…………… 当月は一部に下降との声があるが、上昇との声が多い。先行きについても上昇を見込む声が多い。



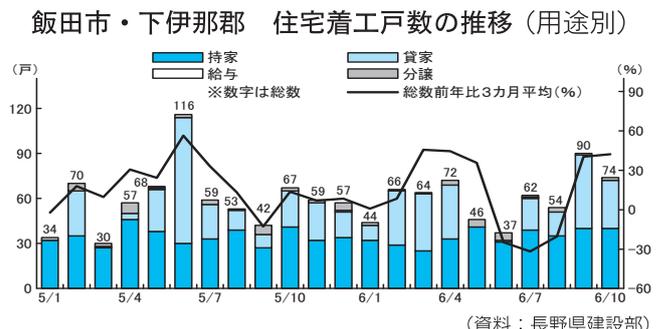
[企業からのコメント]

- ・「前年同月より受注金額は伸びている。工事高も順調に推移」「工事高は概ね横ばいも、年度末に向けた業務進捗は順調」「県、市町村ともに大型物件が地元にないため、民間工事や維持工事のみとなっている」
- ・「新規雇用に期待ができない状況下、工事量が希薄な他県より人材を確保していく。大規模なリニア駅建設に向け、工場の増築、対応加工機の導入を検討中」「人員不足により工事の進捗状況もやや停滞気味」
- ・2026年頃からリニア中央新幹線の各駅工事が本格化すると、なお一層の職人不足になり、小規模工事の不落が予想される。広いコネクションを持つ大手ゼネコンに益々有利になりそうだ。

民需

概況 令和6年10月の住宅着工戸数は74戸で前年比10%増加。持家、分譲は横ばいも、貸家の増加が寄与し、4か月続けて前年比プラス

- ✓住宅着工戸数… 当地区の10月の住宅着工戸数は74戸。前月比18%減、前年比では10%増。持家の戸数は40件で前年（41件）と大きく変わらず。貸家が32件で前年（24件）から増加。分譲は2件で、前年（2件）と変わらず。
- ✓景況感…………… 当月は横ばい～やや好転、先行きも同様。当月、先行きともに悪化との声はなかった。



[企業からのコメント]

- ・民間物件は住宅を含め減少している。大手チェーン店の出店がちらほら見受けられる程度。リニア中央新幹線長野駅駅の建設と付帯工事がメインになっていく模様。
- ・「地域の建築工事も忙しく、職人不足に拍車がかかっている。特に大工はいない」「各社工事が増えているようだ。大工など職人が足りない状況は今後も続くだろう」
- ・このところ社長交代のハガキがよく届く。血縁による交代ばかりでなく中にはM&Aによるところもあるが、経営者の立場からは解放されて気楽になれる。

建設資材等

概況 11月の生コンの売上は前月比では業者により増減分かれ、前年比では増加。骨材も同様

- ✓生コン … 売上は前月比は業者により増減分かれる。前年比では増加。
- ✓骨材 … 売上は前月比は業者により増減分かれる。前年比では増加。

[企業からのコメント]

- ・11月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、病院・工場建設、砂防堰堤工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の3割弱。
- ・「リニアが関係している工場は出荷があったようだ。関係ない工場の出荷は少ない」「前月比では大きく変わらないが、昨年同月比では増加した。リニア向け生コン出荷の増加に伴い、骨材の出荷も増加」「リニア需要で、各社軒並み出荷量を伸ばした」
- ・リニアのどの工区も工期延長となり、業界としての供給能力の範囲に収まっているという、結果オーライの状況。当地域の各社は取引先と打合せを重ね、ストック場の確保、生産能力のアップ等、リニアへの対応能力を上げている。それでも、現状の2～3倍の出荷を求められた際にどうなるのかという不安を抱えながら、現状の取組を進めている状況。

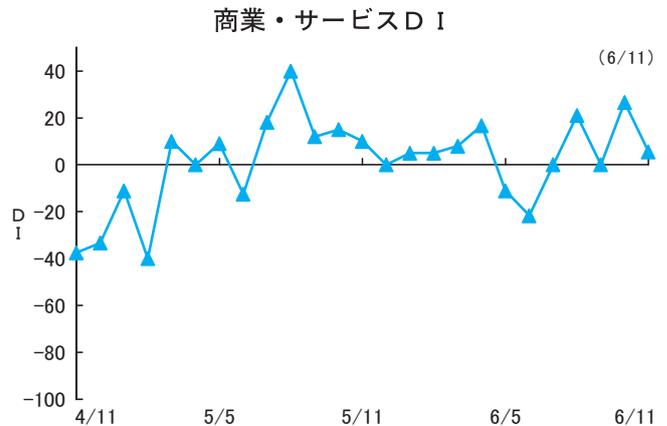
商業・サービス業

概況 景況DIは前月から悪化。小売業、飲食業で景況感悪化の声が複数

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）プラス5.6で、前月から21.1ポイント低下。

先月はマツタケの豊作などもあり、景況感好転の声が多く聞かれたが、当月は小売業、飲食業で景況感悪化の声が複数聞かれ、指数を押し下げた。景況感が悪化した事業者からは、長引くインフレによる売上への影響を指摘する声が多く聞かれた。一方、卸売業では青果、食肉などから景況感好転の声が聞かれた。

次月以降は卸売業、飲食業、宿泊業など幅広い業種で悪化を見込む声が多く、年末に向けて慎重な見方をする事業者が多い。



主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。先行きはやや減少～横ばい

☑売上 … 前月比は業者により増減分かれる。先行きはやや減少～横ばいで、横ばいの声が多い。

☑景況感 … 当月は悪化～横ばい。先行きはやや悪化～横ばいで、横ばいを見込む声が多い。

[企業からのコメント]

・「年末にかけては売上増加の見込み。1～2月はその反動で減少となる見込み」「昨年比で来店客は横ばいも、今期は売上が大幅に減少。値上がり続きの影響がある」

●卸売業 概況 売上の前月比は減少～横ばい。景況感は好転との声は複数

☑売上 … 青果、服飾は前月比減少、電設資材は前月比やや減少。食肉は前月比で横ばい。

[企業からのコメント]

・野菜は、秋野菜はキャベツ、レタスなど葉物を中心に高値が続いており、12月中旬までは続きそう。マツタケの出荷が11月にもあったこともあり、野菜全体では入荷量増加、価格高となった。果実は、売上1位のりんごは、ふじの出荷も始まったが出荷量が少なそうで価格も大幅に高い。みかんは価格が良く順調な売れ行き。これから旬を迎える市田柿は乾きが遅く、出荷時期が例年よりも遅くなりそう。

・前月に引き続いて気温の高い日が続く、暖房季節商品は例年を大幅に下回る出荷量となっている。大型物件は堅調だが、人手不足が深刻であり、工期の長期化や材料の在庫が積み重なる状況のため、経費増等で利益を圧迫している。

・国内で鳥インフルエンザの発生が増加しており、鶏肉仕入に影響を及ぼす心配あり。

・少しずつ気温も下がり雪も舞い始めたので、年末までに防寒商材の需要が高まると予測される。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業、宿泊業ともに業者により増減分かれる。景況感も、飲食業、宿泊業ともに業者により見方が分かれる

☑売上 … 飲食業、宿泊業は業者により増減分かれる。運輸業は前月比やや減少、前年比はやや増加。

[企業からのコメント]

・「秋の山行き等、行楽シーズンに入り、売上は順調。ただ仕入単価、従業員給与もアップしており、利益率はかなり悪化しているように感じる」「インバウンドをこんな田舎でも感じられるようになった。英語の出来ない方でもアプリを使って問題なく飲食できている」「11月も前年同月の売上に届かなかった。全般的に、やはり景気が良くないと感じる。12月は良くなってほしいが、区の忘年会も中止になるなどの影響もある」

・「前月比では減少したが、前年比では増加となり11月単月では過去最高となった。主要のビジネス需要、観光需要ともに取り込むことができた」「個人客を中心に、12月は霜月祭り関連客の宿泊予約が多く入っている」「今年の秋シーズンは昨年同期とほぼ同額の売上を確保したが、利益が出ていない状況。賃金上昇に加え、社会保険の加入者増加なども大きい。また、ネット予約による送客手数料やシステム利用料なども非常に高い。自前のホームページからの予約を多くできれば良いが、なかなか簡単には解決できない」

・コロナ前との売上対比はようやく9割弱になってきている。夜間のタクシー需要も同じくらいの比率で戻りつつある。運行回数ではまだ7割止まりだが、昨年の値上げにより売上の底上げにはなっている。12月の繁忙期に向け、供給力の強化が必要になってくる。

リニア新幹線 この1年 ～ 開通時期の遅れが確定、県内外で様々な事象～

本年も残すところあと僅か。リニアを巡るこの1年を振り返る。

1. リニア工事の遅れが表面化

最初の「異変」は、昨年暮れ12月14日。JR東海がリニア中央新幹線品川・名古屋間工事実施計画（その3）及び変更の認可申請を国土交通大臣に提出。工事予算の増額に加え、工事完了の予定時期を「令和9（1927）年」から「令和9年以降」とされたこと。南アルプストンネル静岡工区で着工の見通しが立たないためとの説明があり、一般にもそのように受け止められた感があった。

リニア開業が遅れるかもしれない。そのような話は一般住民にも茶飲み話的に語られていたのだが、本年3月29日国土交通省の第2回中央新幹線静岡工区モニタリング会議において、かつて長野県担当部長であったJR東海中央新幹線推進本部澤田尚夫副本部長は、同静岡工区は2017年度に契約してトンネル掘削等工事で2027（令和9）年開業を予定していたことから、「仮に2024年4月から工事に着手できたとしても、これまで6年4カ月経過したことが（リニアの）名古屋開業に直結する。長野・山梨工区の状況から掘削期間の短縮材料を見つけるのは難しい。これ以上の遅れもあり得る」と報告した（国交省HP）。

これをマスコミが「更にもう10年」「開業は2034年」などと一斉報道したものだが、既に3月から半年以上経過していること、県内の山岳トンネルも当初計画に対して全般に厳しい進捗であることを踏まえると、2034（令和16）年開業もかなり厳しいと予想されるのではないかと。



進捗が見られる喬木高架橋

2. 静岡県知事の交代劇

4月2日、川勝静岡県知事は定例（ぶら下がり）記者会見中、突如知事辞任を表明した。前日の静岡県職員入庁式での訓示の真意を巡る応酬のなかでのことだった。10日川勝知事は辞職願を県会議長に提出、30日後に自動失職。知事選は5月9日告示、同月26日投開票と決まった。

知事選には6氏が立候補。26日の投開票で、前浜松市長の鈴木康友氏の当選が決まった。新知事の動きは早く、6月5日には丹羽JR東海社長と会談。リニア着工に向けての連携を確認したという。

9月17日、静岡県は県内における地質調査（高速長尺先進ボーリング）を容認するとJR東海に通知した。県と大井川利水関係協議会の合意が得られたことによるもの（ANNnewsCH）。山梨工区のトンネル切羽から掘削し静岡県境から316m地点で静岡県の反対により止まっていた。静岡県の専門部会がJR東海のリスク管理を評価し、県境を越えてのボーリング調査を容認した。（同）。

3. 県内リニア本線（トンネル他）の工期延長が明らかに

4月4日JR東海が座光寺高架橋と保守基地の完成が2031（令和13）年度になるとし、2027年を超える工期が出されてきた。川勝静岡県知事の辞意表明を待ったかのような発表であったが、飯田市によると「辞意表明（4月2日）前の3月末には工期が伸びることの発表が予定されていた」（同リニア推進部）とのことだが、タイミングが良かったとは思えない。

4月22日阿部長野県知事と丹羽JR東海社長が会談。知事からは、「リニア開業時期を示すこと、長野県駅に1時間2本以上の停車」などを要望したが、工期目途については、6月（大鹿村）、7月（飯田市）で順次示すとされた。

6月3日大河原地区、6月4日大鹿村での説明会において、南アルプストンネル長野工区は、各工区で2.5年～3年遅れの2028（令和10）年とし、全体の完了を2030（令和12）年。伊那山地トンネル青木川工区は、トンネル掘削工は約2.5年遅れの2027（令和9）年、全体の完了を2029（令和11）年と発表された。

6月23日阿島北地区、6月24日喬木村において、喬木村内の阿島北高架橋（約430m）、阿島トンネル（170m）、壬生沢川高架橋（470m）は、工期を約3年延長の2029（令和11）年度としている。

9月17日切石地区において、中央アルプストンネル松川工区（妙琴公園→清内路）では、本線トンネルは約3年半遅れの2029（令和11）年度。同工区総体の工期は2031（令和13）年と発表された。

9月19日羽場地区において、風越山トンネル黒田工区（黒田非常口→松川）では、黒田非常口施工ヤードから本坑に取り付く非常口トンネル（約1.1km）は令和5年8月の掘削開始から約2割の進捗。同工区の本線トンネル（約2.3km）を含めた全体の工期見通しは示されなかった。

4. 長野県駅（仮称）および駅周辺の見通し

7月23日上郷北条地区、25日座光寺地区、28日上郷地区において、リニア長野県駅（仮称）は、先行して着工した土曾川橋梁設置工事と座光寺高架橋（駅東部）、駅部高架橋区間（駅中央部）、土構造区間（駅西部）について説明があった。工期は駅東部（座光寺高架橋区間）、土曾川橋梁、駅中央部（高架橋区間）が2030（令和12）年度、駅西（土構造区間）が2031（令和13）年度となる。

9月議会リニア推進特別委員会において、飯田市が進める駅周辺整備事業は「JR東海及び長野県と調整を図りながら」としながらも駅北側、駅南側ともに2028（令和10）年度に部分共用開始の予定とした。飯田市は、駅周辺に賑わいを創出する施設の設置を進める方針で、11月25日には「飯田・リニア駅前広場プラットフォーム事業」第1回プラットフォームが開催された。

リニア開通の遅れは社会・経済的に大きな影響を及ぼす。佐藤市長は「リニアに寄りかかり過ぎない」（飯田市長 4月1日 市年度初め式）として計画全般を見直す方針で、9月には市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」基本構想で定める人口ビジョンについて、2028年時点の定住人口を4千人下方修正し、92千人とする案を公表した。

5. 県外の状況

県外に目を転じると、本年はいくつか進捗の知らせがあった。着工が早かった品川駅、名古屋駅は順調に進捗。都度報道陣に公開された。11月9・10日神奈川県駅では「さがみはらリニアフェスタ」が開催され、大勢の人が詰めかけた。工事中の駅構内でデジタルマッピング投影やライブ演奏などが行われた。

シールドトンネル工事は、1月15日には川崎市百合丘非常口でシールドマシンが公開。4月8日に第一中京圏トンネル名城非常口（名古屋市）と坂下非常口（春日井市）でシールドマシンによる調査掘進を開始。同日トラブルで中断していた北新川工区（東京都品川区）でも掘進を再開した。10月15日坂下西工区と11月5日北品川工区はそれぞれ予定の調査掘進が不具合なく完了したことが発表された。

反面、岐阜県瑞浪市大湫町おおくての日吉トンネル（NATM工法）では、トンネル工事により地上部の池や井戸の水位が低下したり枯れる現象が現れ、地盤沈下も観測された。JR東海はトンネル工事によるものと認め、対策に迫られている。

南アルプストンネルで山梨県側から進められる地質調査（高速長尺先進ボーリング）は、11月20日静岡県境を超えた。出水量は極めて少ないという。ところが、12月6日静岡県に入って10m進んだところ、途中の地質のもろい部分が崩れボーリングが継続不能となり調査は中止となった。今後は先進坑を県境まで掘削し、そこからボーリングを再開するという。

6. 静岡県の議論はまだまだ続く模様

静岡県では、大井川の水、南アルプスの環境・生態系への影響を「地質構造部会・水資源部会」、「生物多様性部会」の両専門部会を開催して検討している。「地質・水資源」は18回（概ね3～4カ月毎）、「生物多様性」は14回（同）を数えた。

議論の詳細を取り上げることはできないが、当初静岡県が検討すべき項目（対話項目）として挙げたものについて、「地質・水資源」は28項目中、完了したもの4、途中のもの17、今後行うもの7。「生物多様性」では17項目中、完了2、途中12、今後着手3となっている（静岡県HP）。

静岡県が課題を全部解決して、工事にゴーサインを出すまでにはもう暫くの時間を要するものと思われる。

今後の推移について長野県からも注視することとしたい。



釜無川橋梁工事の現状（12月5日山梨県中央市）。天竜川橋梁ももうすぐこのように

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

2024年の飯伊地区各種統計から

長野県鉱工業生産指数

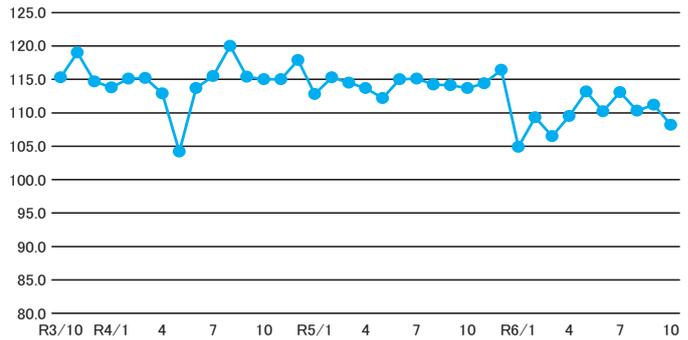
令和6年10月までの長野県鉱工業生産指数(季節調整済指数 R2=100)の推移をみると、令和6年は、年初から令和2年の水準を上回っている。

とはいえ、原指数の前年比を見ると、5月、7月を除いて前年を下回って推移しており、生産活動に弱い動きがみられた。

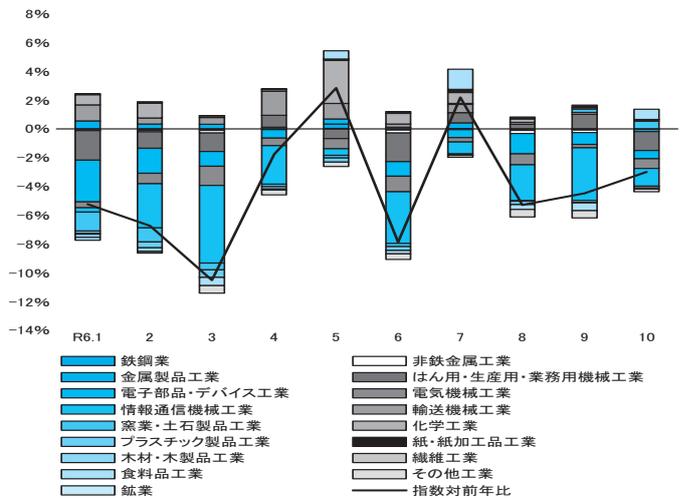
品目別に見ると、輸送機械や、化学は前年を上回って推移していた。はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業など長野県の主力製造業は、令和2年の水準は上回っていることが多いものの、前年比はマイナスとなる月が多かった。

資料：長野県企画振興部

長野県鉱工業指数の推移(季節調整済指数 R2=100)



長野県鉱工業生産指数 品目別寄与度(対前年比 原指数 R2=100)



(資料：長野県企画振興部)

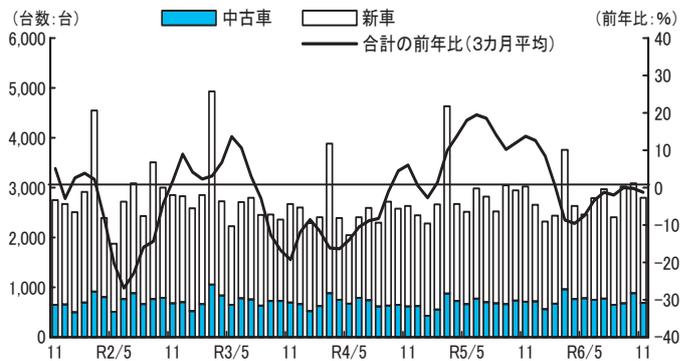
自動車新規登録台数

令和6年の新車と中古車を合わせた自動車新規登録台数(松本自動車検査登録事務所管内)の累計は、11月現在、新車が22,515台で、前年同期比マイナス8.5%。中古車は8,171台で、前年同期比プラス8.6%だった。新車と中古車の合計は30,686台で、前年同期比マイナス4.5%となっている。

令和5年は、新車を中心に、ここ数年では比較的登録台数が多かったが、今年は、新車が年初来昨年を下回る水準で推移した。一方、中古車は、年初来昨年を上回る水準で推移したものの、新車と中古車の合計では、年初来昨年を下回る水準で推移した。

資料：松本自動車検査登録事務所

自動車新規登録台数(松本自動車検査登録事務所管内)



(資料：松本自動車検査登録事務所)

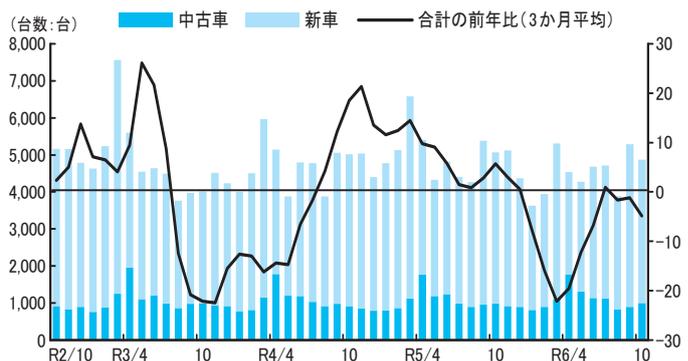
軽自動車新規登録台数

令和6年の新車と中古車を合わせた軽自動車新規登録台数(県計)の累計は、10月現在、新車が34,217台で前年同期比マイナス12.9%、中古車は10,908台で前年同期比プラス0.5%。新車と中古車の合計は45,125台で、前年同期比マイナス10.0%となっている。

軽自動車では、令和5年は新車を中心に、令和3、4年に比べ登録台数が多かったが、今年は、新車が、年初来、昨年を下回る水準で推移し、中古車も昨年を下回る月が多く、新車、中古車の合計も昨年を下回る水準で推移した。

資料：(一社)全国軽自動車協会連合会長野事務所

軽自動車新規登録台数(長野県合計)



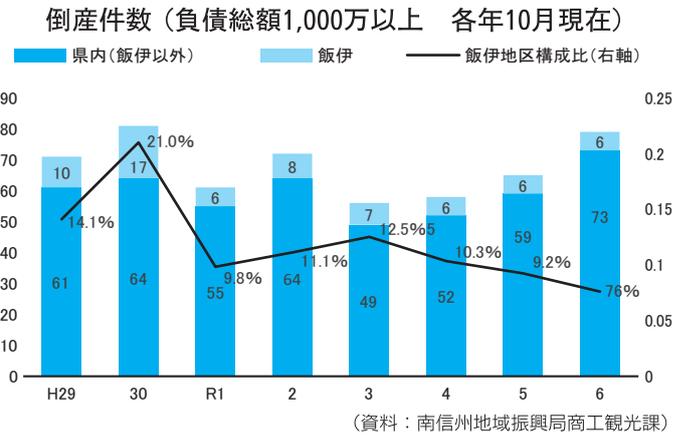
(資料：(一社)全国軽自動車協会連合会長野事務所)

倒産件数（負債総額1,000万円以上）

飯伊地区における令和6年10月までの累計倒産件数は6件で、県全体の7.6%を占める。

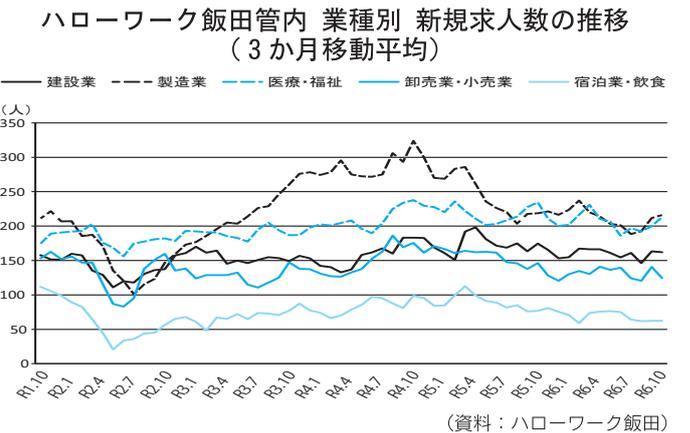
コロナ禍も下火になった令和3年に減少した県内の倒産件数だが、それ以降は増加基調にある。

一方、当地域では、令和3年以降増加傾向は見られない。
資料：南信州地域振興局商工観光課



ハローワーク飯田管内 新規求人数

景気の先行指標とされる新規求人数だが、飯伊地区で比較的求人数が多い5業種の新規求人数の推移を見ると、製造業や卸、小売業では令和4年後半から新規求人数が減少傾向にある。この期間、建設業や医療・福祉業の新規求人数は概ね横ばいで推移している。宿泊業・飲食業の新規求人数はコロナ禍後も、コロナ前の水準を回復していない。
資料：ハローワーク飯田

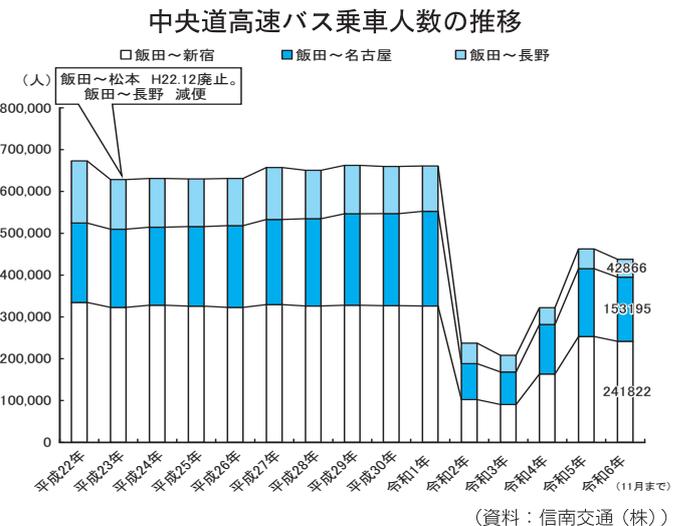


中央道高速バス3路線利用人数

令和6年の中央道高速バス3路線利用人数は、11月までの累計で、飯田～新宿線241,822人、飯田～名古屋線153,195人、飯田～長野線42,866人。

前年同期比で見ると、飯田～新宿線はプラス5.0%、飯田～名古屋線プラス3.2%だったが、飯田～長野線マイナス1.3%となっている。

コロナ禍前の水準を中々回復しないが、飯田～新宿線、飯田～名古屋線では徐々に回復の動きも見られるように思われる。
資料：信南交通（株）



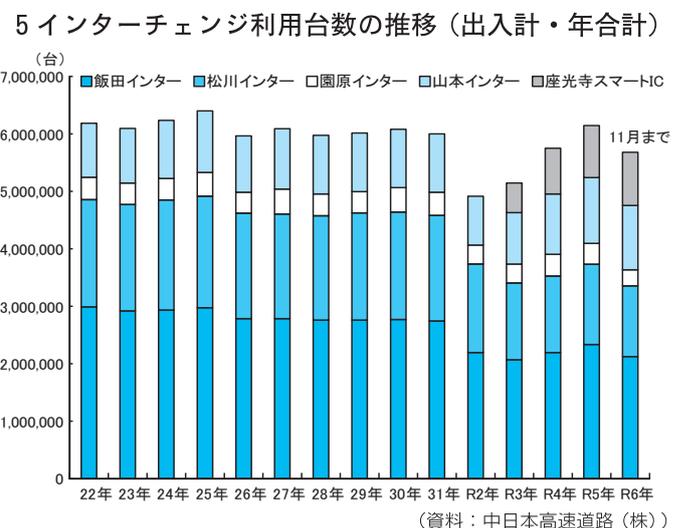
中央道利用台数（飯伊地区5インターチェンジ出入合計）

令和6年の飯伊地区5インターチェンジ利用台数は、11月までの累計で、飯田IC 2,120,480台、松川IC 1,230,577台、園原IC 280,280台、山本IC 1,122,121台、座光寺SIC 922,786台だった。合計では5,676,244台で、令和5年同期比でプラス0.3%、ほぼ横ばいとなっている。

令和6年の座光寺SIC利用台数のシェアは16.3%で、令和3年の10.0%から増加傾向にある。

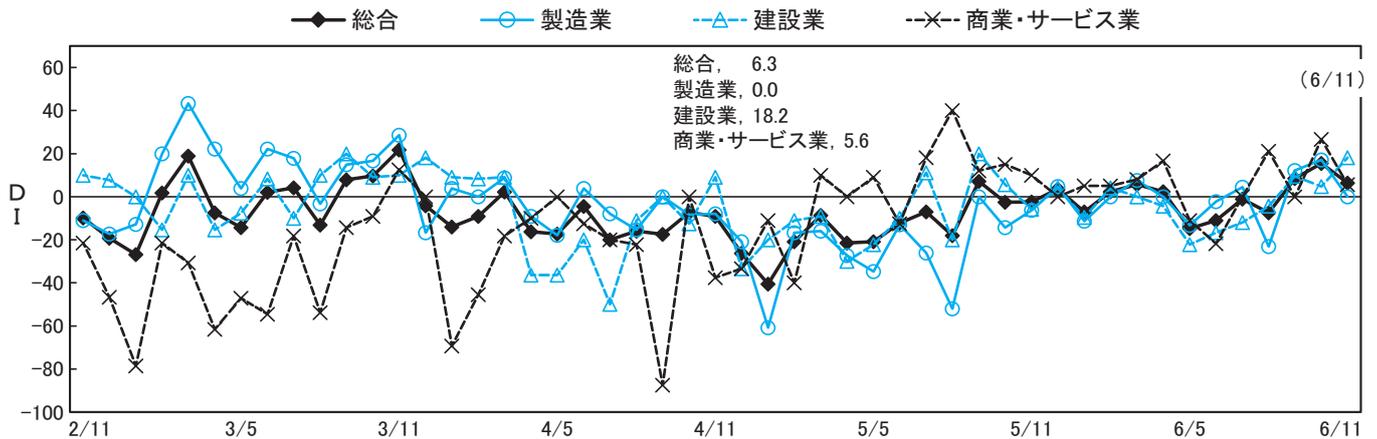
資料：中日本高速道路（株）

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達）



飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI（本誌調査）



飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上) (10月)	県内	10件	(前月 6件)	(前年同月 9件)	(前々年同月 6件)	(令和元年同月 6件)
	飯伊	1件	(前月 1件)	(前年同月 0件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 0件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (10月)		74戸	△ 17.8 %	10.4 %	68.2 %	42.3 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (10月)		1.40倍	(前月 1.41倍)	(前年同月 1.55倍)	(前々年同月 1.74倍)	(令和元年同月 1.38倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,105台	△ 4.4 %	△ 9.0 %	4.5 %	0.2 %
	中古車	690台	△ 21.7 %	△ 3.2 %	11.1 %	5.8 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (10月)	新車	3,867台	△ 11.8 %	△ 5.2 %	△ 5.7 %	18.7 %
	中古車	1,006台	12.0 %	1.8 %	9.3 %	13.0 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	104,603台	18.4 %	1.9 %	7.8 %	△ 13.8 %
	出	106,440台	△ 1.8 %	1.8 %	8.2 %	△ 12.7 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	68,855台	△ 0.5 %	1.3 %	3.5 %	△ 24.2 %
	出	69,047台	7.0 %	0.6 %	5.1 %	△ 22.7 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	20,635台	0.9 %	1.0 %	△ 4.7 %	△ 0.6 %
	出	15,756台	5.3 %	76.9 %	△ 11.8 %	△ 23.6 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	57,450台	△ 5.2 %	0.3 %	16.9 %	9.6 %
	出	59,879台	△ 0.4 %	△ 6.0 %	7.8 %	12.6 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	44,034台	△ 20.4 %	7.0 %	21.6 %	- %
	出	44,038台	△ 4.0 %	12.2 %	24.6 %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		113件	△ 23.1 %	△ 24.7 %	△ 13.7 %	△ 22.6 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		5件	(前月 0件)	(前年同月 1件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 7件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	22,497人	1.6 %	8.2 %	40.8 %	△ 18.8 %
	飯田～名古屋	14,245人	△ 1.5 %	0.0 %	25.9 %	△ 22.8 %
	飯田～長野	3,955人	△ 7.2 %	△ 0.8 %	14.4 %	△ 55.4 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	18,348人	△ 1.8 %	11.6 %	64.5 %	△ 16.5 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,023人	△ 1.5 %	13.7 %	18.3 %	△ 17.9 %
	右回り	3,098人	1.0 %	16.9 %	24.9 %	△ 8.7 %